

— 発行者 —  
 福島県公立学校退職校長会  
 福島支部長 鈴木昭雄

— 編集広報部 —  
 題 字  
 高橋 藤園

第129号

# アントレ教育で人材育成

川俣町教育委員会教育長

佐久間 裕 晴

川俣町では、「二十歳のつどい」開催の後、地区ごとに新年会が行われている。私もある地区の新年会に招かれた。その地区では、二十歳になった若者を地域をあげて祝うことが伝統行事となっている。当時の小学校の校長や学級担任も招かれた。会のメインは、思い出の詰まったタイムカプセルの開封である。カプセルの中から出てきたのはアルバムや絵・作文など様々であったが、その中から「スリンちゃん」というぬいぐるみを若者たちは取り出して、懐かしそうに振り返り、印象に残っている六年生の時の学習のことを話してくれた。

大震災後、川俣町は、復興の花として「アンスリウム」の生産を開始した。今では国内有数の生産地となっている。彼らは、当時川俣町の産産を学ぶ中で、アンスリウム栽培に興味をもち、この花の栽培を始めた理由などを調べたり、自分たちもPRの役割を果たせないかと生産農家や栽培を指導してきた大学や役場の農業担当職員などと相談したりして積極的に地域に関わってきた。学習の中で浮かんだPR作戦のアイデアの一つが、アンスリウムのイメージキャラクター「スリンちゃん」だった。立派に成長した若者たちから当時の鮮明に残っている体験談や郷土に対する思いを聞きなが

ら、その時の活動は、昨年度から町内の各小中学校で力を入れて取り組んでいる「アントレブレナーシップ教育」そのものであり、当時、子どもたちの思いを引き出しながら探究的な取組をコーディネートした教員の力にも感激した。

子どもたちは、町の未来の担い手であり、地域を支えていく存在である。目の前の子どもたちを今どう育んでいかねばならないのか、町の教育行政に携わる者として課せられた命題でもあると思う。なぜなら教育という営みは、学びを通じた地域の人材教育だからである。アントレブレナーシップ教育とは、自己の発想や工夫を積極的に社会貢献へ生かす意欲や態度を育てる起業家精神（チャレンジ精神、探究心、創造性等）と資質・能力（情報収集力、判断力、コミュニケーション力等）を育むことを目的とした教育のことを言います。これは、学んだことをもとに、自分も地域社会の一員として、地域の人や地域社会に果敢に働きかけることができる子どもを育てるための教育とでも言った方がピンとくるかもしれません。

## 【今年度の実践例】

「ふるさと川俣町の魅力発信」  
 小学校六年生  
 ○ 川俣町の「歴史・文化・産業」について、各自、調査し

たい課題について、関係の方と直接会って話を聞いたたり疑問を投げかけたりして自らの課題を探究。



○ 調べたことをパンフレットにまとめ、このパンフレットをもとに、川俣町の魅力を、町外の人に知らせる活動に発展させていく活動。  
 川俣創生プロジェクト  
 中学三年生

○ 川俣町よさと課題の検討と仮説による検証方法の確認。  
 グループ編成  
 による役場の政策推進課や農林振興課など各課の職員と意見交換の場を設ける。



○ 町職員が生徒の活動の伴走者として複数回支援する。  
 ○ 生徒の提案を文化祭等で保護者や町職員に提案する。

アントレ教育は、特別なことをするのではなく、これまで各学校が進めてきた、総合的な学習やSDGs学習などの探究的な学びにおいて、子どもたちの問いや思いを原動力として地域に働きかけ、人に働きかけながら自ら行動する姿にまで繋いであげたりしていく取組である。日々の教育活動を通して、地域社会に関わっているという子どもたちの意識の醸成こそが人材育成であると考えている。アントレ教育が、未来を担う人材育成につながるようこれからも学校とともに進めたい。

## 写真展

### 「光と灯り」に満ちて

今年度、結成二十年を迎えたフォトクラブ・T(代表 山寺精吉氏)。令和七年十月二十三日から二十六日までの期間、九回目となる写真展が開催されました。これまで二年に一度でしたが、今年度から毎年開催するとのこと。今年度も新会員が一人加わり、活動はますます盛んです。今回のテーマは「光と灯り」。今一回の定例会を開き、会員相互の研鑽に努めている同クラブ。日々の生活から感動と物語性のある作品づくりをめざし、総数七十点の力作が展示されました。

会場を訪れた人は、一つ一つの作品の前で足を止め、会員から作品の説明を受けながら、写真展を満喫していました。



# 米寿・喜寿を迎えて

## 米寿とお茶の心

南向台 佐藤 忠三

「恥を捨て、人に物とい習うべし、これぞ上手の基なりける」で始めたお茶が、米寿の人生を支えようとは思ってもよらなかつた。お茶の精神であるところの「和敬清寂」の心が、部屋のしづらえ、床の掛軸、季節の茶花など、生活にゆとりをもたらし、いたのではないかと思う。

利休七則の、相客に心せよ、降らずも雨の用意、刻限は早めに等は、日常の生活そのものである。茶の点前でも相手を敬い一座を建立するという教えで、お互い心を開き一人一人が支え合うという気持ちの大切さは、感謝の心にもつながっており、生活にゆとりをもたらし、いた。

しかし山あり谷ありの人生、「平常心是道」の心構えはどうだったろうか、何事もその大切さは理解しつつ瞬時に自分を生かし行動する難しさは常々考えさせられた。米寿とはいえ一生が学びです。利休道歌の「稽古とは一より習い十を知り、十よりかえるもとのその一」を心に意義ある生活をしたい。今日も静かに、松風の音を聴きながら一服のお茶を、一期一会。

## 喜寿を迎えて

清水 A 佐藤 俊市郎



ご案内を頂いた時、歳(よわい)を全く意識すること無く生きて来た自分に思い至り、実際との乖離に戸惑ってしまいました。

十一年前に福島県公立学校退職校長会に入会し、県事務局にも関わりさせて頂いた。本会について、思慮してきた処等を述べ、御礼に代えさせて頂きたい。まず、福島市の教育行政に携わった折、平成二十三年三月十一日に東日本大震災・原発事故に遭遇。大混乱する教育現場の状況を少しでも解消する為に、当時の支部長であったO先生に退職校長の方々の力をお借りしたいと相談。結果「スクールアシスタント活用事業」が創設され、現在も継続実施されていると伺っている。疲弊した学校は何程助けて頂いたか計り知れない。改めて往時の支部会員の皆さんのご尽力に感謝・御礼を申し上げます。

さらに昨今は、いじめ、不登校の増加、教員採用(小)の申込み一程度、本会への入会者減等々、教育界は昏迷状態に。本会の目的の一つに、現職校長(後輩)への支援による学校教育の充実と寄与するに在る。組織としての働きを機能させ、効果をもたらし、ことが肝要である。今後共学校教育を応援して行きたい。

## あの日 あのとき

瀬上 B 和光 幸男



退職の翌年のあの日の午前中、来賓席から卒業生の三年間の成長した姿を懐かしく見ていた。

その日の午後は、当時勤務していた市学習センター指導員の研修会が開催されていた。まさに午後二時四十六分のあのとき、今まで経験したことのない大地震に遭遇した。会場の信夫学習センター二階会議室で二十名余の出席者と共に床に這いつくばり、そこから周辺の家々の屋根瓦が軒並み音を立てて崩れ落ちる様子を、只々呆然として見ていた。少し揺れが収まる気配を感じた。少しいで帰路に就いた。勤務地の清水学習センター分館までの道のりは実に長く遠く感じられた。全く作動しない信号機と時折地面を揺るがす強い余震に怯えながら、ようやく着いた。

その夜は、ストロブとろうそくの明かりの中で避難者と共に一夜を明かした。不安な気持ちからか、一層寒さが身に染みだ。原子力発電所の爆発や県内外への集団避難、津波で多くの尊い命が奪われたこと等は、後日知ることとなる。喜寿を迎える今でも「あの日、あのとき」の記憶が鮮明に蘇ってくる。

## 賀寿万歳

### 佐々木俊昭先生宅訪問

令和七年十月二十四日、根本飯坂B方部理事の案内により、鈴木支部長、藁谷庶務、広報担当の四人で佐々木俊昭先生宅を訪問。賀寿のお祝いをお届けしました。



先生は三年前に奥様を亡くされ一人暮らしですが、毎朝の散歩を日課とされ元気に過ごされています。玄関や廊下、応接間に飾られた写真。棚にはたくさん、トロフィーや楯、賞状。七十歳から始められた写真撮影では、県展はじめ各種展覧会で最高賞など多数受賞。退職後の充実した生活の一端を伺うことができました。

原町高校で退職された先生は広報担当が通った高校の化学の教科担任。半世紀ぶりの再会で、遅まきながら当時お世話になった御礼をお伝えすることができ、個人的に有意義な訪問となりました。

### 遠藤忠蔵先生宅訪問

遠藤忠蔵先生宅訪問は、令和八年一月十七日、案内役の目黒岡山方部理事と上記事務局三名の計四人で賀寿のお祝いをお届けしました。



岳陽中学校で退職された先生の校長としての初任地は、旧小高町の鳩原小学校。勤務はわずか一年でしたが、お年寄りや子どもたちとあたたかな交流を重ねることができ、とても感慨深いものになったとのこと。また、自宅と勤務地の往復は趣味のバイク。阿武隈山中で定期的なすれ違う縁で、軽く会釈を交わし合うような仲間ができたことなど、懐かしいお話をたくさん伺うことができました。

先生はコロナ禍を機に娘さんのご家族と同居。最近視力がやや低下したものの、週に一回は大極拳等で体を動かし、元気に過ごされています。

# ふれあい広場

― 方部会員紹介 ―

## 子どもたちの笑顔のために

中部 伏見 珠美

令和五年三月末に退職し、四月一日より伊達市にあり、「認定こども園伊達こども園」にお世話になり、もうすぐ丸三年となります。「認定こども園ってどんなところなのだろう。幼稚園と何が違うのだろうか。」と不安を抱えながら始まった園での勤務。今までと異なる環境や勤務体制に戸惑うこともあり、園長先生を始めとした職員の皆様に助けをいただきながら頑張っております。退職前にこのような機会があれば、教員生活も違ったものになっていたかもしれません。それでも、小学校での経験を活かして、子ども達の笑顔とよりよい成長のために微力ながら努めてまいりたいと思っております。



## 私感(新会員として)

御山 佐藤 浩 昭

昭和三十八年生まれ世代  
 ・R5 役職定年 六十歳  
 ・R6 特例任用校長 六十一歳  
 令和五年度末退職を一つの区切りとして、これまで全力で職務にあたって参りました。しかし、昨今の社会情勢から、定年が一年ずつ延長され、六十五歳定年となります。それに伴い、役職定年、特例任用など前例のない数年を経験させていただきました。

特例任用にあたっては、異動を伴い、年間限定という難しい学校経営を求められました。また、退職校長会からは、令和五年度末でのお誘いをいただいていたのですが、「特例とはいえ、退職はしていない」という勝手な思いから、入会を先延ばしとしておりましたことお詫び申し上げます。

学校現場から離れ、これからは、自分のことだけに全力を注ぎたいと考えていました。その反面、ニュースや伝え聞いた話から、学校や先生方を応援したり、あやぶんだりしている自分があります。やはり、長年慣れ親しんだ慣習から脱却できるのは、少し先になりそうです。

## 最近の日常

清水A 大橋 誠 寿

退職十年目を迎えようとしている。最近の日常は、現役の時の荷物や文書類の廃棄処分と写真撮影の二つが中心である。どうしてこんなに捨てずにいたのか、と後悔している。しかし大量に処分するたびに、なんとも言えぬ心地よい気分も味わっている。

その一方で、写真関係の荷物は増えるばかりで困り始めた。そこで解決策として専用の収納棚を自作してみた。W一八〇〇〇、D九〇〇、H一八〇〇の力作が完成した。意気揚々と子ども部屋だった二階の窓際に設置した。数日間はクレームの嵐が吹き荒れたが、棚から溢れた分は処分するという原則でなんとか嵐も収まっている。家族に感謝しながら写真道楽にはまっている今日この頃。

## 今を楽しむ

清水B 横須賀 広美

東日本大震災の年に退職し、昨年後期高齢者となった私の今の楽しみは、ゴルフ、読書、カラオケです。

ゴルフにはまったくきつかけは、退職の年に先輩に誘われコンペに参加したことでした。クラブを二、三本持ち、右や左へと走り回ったことをきのうのこのように思い出されます。今では十を超えるコンペに参加し、四季折々の山野の散策と同伴者となった様々な職種の方々とのおつきあいを楽しんでいます。

また、最近の読書は、今野敏のいわゆる警察小説です。文庫本だけでも百冊を超えています。テレビドラマになっている著作もあり、再読再視聴しては楽しんでいきます。主人公の推理力に驚くとともに相手を思いやる心情に心癒されます。

さらに、カラオケは専ら夜の部で楽しんでいきます。歌うのは平成、令和生まれの歌には全くついていけず、いわゆる懐かしの昭和歌謡曲です。ゆつたりした曲のテンポにうっとりしながら歌っています。

今朝もまた 念仏唱え

息災に

## 夏の旅行のために

南沢又A 石川 幸男

毎年、夏休みに妻と旅行をしています。退職後は時間に余裕があるため三泊で楽しんでいきます。移動は、自由に時間を調整できるように自家用車を交代で運転します。

現役時の二泊では東北周遊や甲信越どまりでしたが、三泊ですと近畿まで足を延ばせば彦根城や比叡山、琵琶湖等も余裕をもって見学でき、関西の文化をとっても新鮮に感じました。(さすがに、出雲大社や足立美術館はツアーに参加しようと考えています)

ジャンルを決めてはいませんが、振り返ってみると、退職後は神社仏閣、城等が必ず入っていました。事前に関連する知識を仕入れていても、実際に現地を訪れると、その迫力に圧倒され、改めて先人の偉大さを肌で感じ、感動します。

「健康寿命」という言葉があります。あと何年、他人様に迷惑をかけずに長距離移動ができるのかはわかりませんが、一年でも長く旅行を楽しめるよう、健康についてこの機会に改めて考えてみたいと思いました。



年越し七竈

要望活動を行いました

鈴木支部長、藁谷庶務が九月二十四日に川俣町、十月三日福島市の教育委員会を訪問。各教育長様と懇談し、第二回理事会で報告した内容について要望を伝えてきました。

○川俣町教育長

山木屋小学校が七年ぶりに再開。入学は川俣小学校と選択制とし、現在四年生二名が在籍している。

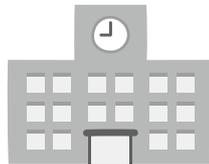
川俣高等学校は全国から生徒を募集。昨年度町外から三名が入学した。町の補助で学生寮も整備され、フェンシング部では

オリンピックメダリストによる直接指導も行っている。

○福島市教育長

学校における働き方改革を進めている。中学校における部活動では各種競技団体の協力を得るなどして、教職員の負担軽減に努めている。

昨年度開校した夜間中学校「天神スクール」に今年度二名が入学し、現在在籍三十一名。充実した学校生活を送っている。



長寿祝い等記念品贈呈者様紹介

◎長寿祝い

◇賀詞贈呈(満八十八歳 全国)

昭和十二年四月二日)

昭和十三年四月一日生

海野 和夫様 佐々木徳芳様  
佐藤 忠三様

◎叙勲・叙位

◇高齢者叙勲

朽木 耕作様

佐藤 正良様

佐藤 功様 樺 薫様

◎各種功労者

◇福島市教育功労者表彰

山縣 眞一様 福地 憲司様  
小針 伸一様



フォトクラブ・一紹介

松川 佐藤 秀雄

「次こそは!!」  
今日も早朝の出発になった。行先は、山形県白川湖。いつものように車中での会話が始まる。教員時代の思い出や目的地での撮影会が中心だ。早春のダム湖は、白霧が立ち込めている。その中に、赤や緑の色鮮やかなカヌーが、浮かんでいる。水没した木々を巡る観光用のカヌーだ。一艘のカヌーが、それらを縫うように進んでいく。湖面に映り込む緑色の船影と白い航跡。あたり一面が、霞んでいる中で、

事務局より

そのカヌー周辺だけが、鮮明に映る。絶好のシャッターチャンス。迷わずシャッターを切る。周りでは会員が、同じように夢中で撮影している。被写体は、湖面や霧に漂う山など各々違っている。互いの写真を見合える合評会が、楽しみになる。次は、山形市霞城公園での撮影だ。満開の桜とお堀、そして電車と構図を考え撮影に入る。電車とのタイミングが合わず苦労したが、何とか撮影できた。夢中で撮影した山形での撮影会も終わり、帰路の車中では、反省会が始まる。これもまた、次の撮影に挑む原動力になる。「次こそは!!」

・相馬支部

○大会宣言  
○閉会式

※支部から二十名参加予定

◎第六十回福島県公立学校退職校長会西白河大会

◇日時 六月九日(火)

十時三十分開会

◇場所 シン鹿島

(旧鹿島ガーデン)

◇大会次第

○開会式

○講演

白河市建設部文化財課 文化財専門研究員 鈴木 功氏

「小峰城跡の整備」

○体験発表

・安達支部  
・北会津支部

◎第六十二回福島支部総会

◇日時 五月二十三日(土)

十時三十分

◇場所 ホテル福島

グリーンパレス

◇内容

○長寿祝記念品贈呈

○協議

・令和七年度事業報告

・令和八年度事業計画

・決算報告

○クラブ活動紹介

○懇親会

◎ご逝去会員様

(令和七年一月〜令和八年一月)

次の方々の逝去に際し、方部理事・事務局が弔意を奉呈いたしました。

石幡 清朗様 田中 光雄様  
佐藤 正良様 田崎 宗壽様  
椿 薫様 泉 清様  
持地 隆一様 菅野 榮二様  
影山 和儀様 菅野 文雄様  
片平 嘉正様 古関 齊様  
齋藤 精二様



編集後記

以前は単年度発行三回、一号六ページ。次第にページ数が減り今年度からは発行も二回。かなりの減量の中、お寄せいただいた玉稿により会員の皆さまの近況や活躍の一端をお伝えすることができました。寄稿者の皆さまに心より御礼申し上げます。今後、さらなる質的向上をめざして微力を尽くしていきたいと嘯くものの、広報担当の力不足は否めません。皆さま、来年度もまたたくさんのお力添え、よろしくお願いたします。